

第9回放送番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成25年2月20日 18時30分開始

2. 開催場所 FMぎんが 2階会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

委員出席 8名

出席委員の氏名 井手委員長 吉見満雄委員 中間隆志委員 加藤俊文委員

下吉秀知委員 牧眞弘委員 堀嘉郎委員 藤崎剛委員（書面出席）

放送事業者側出席者 中崎宗治代表取締役 中崎啓文局長 濱田英作

4. 議題

①これまでに頂いた意見、答申に対する措置等の報告

②FMぎんがイベントに関する意見交換

5. 議事の概要

これまでの番組審議会の中で頂いた意見、答申に対してとった措置を報告するとともに、それらを進めていく上での意見や答申を新たに頂いた。また、FMぎんがの自主イベント開催及びラジオ番組との連携について、その計画の説明をおこない委員より意見、答申を頂いた。

6. 審議内容

中崎局長 これまで頂いた意見、答申に対してとった措置、その他に関する報告を行った。

- ・鹿児島県共生協働啓発広報番組が平成25年2月25日より5週にわたり放送される件の連絡。
- ・Museca♪Style 金曜日を、伊敷地域在住のパーソナリティに担当していただく事となった。
- ・鹿児島市広報掲示板に、平成25年2月21日より末日まで、FMぎんがの広報ポスターを掲示できる事となった。
- ・多くのスタッフのがいる中で、確実な情報共有を図るため局内回覧板を設置した。
- ・消費生活センターへのインタビュー活動は継続中である。
- ・谷山送信所計画の進捗状況報告。
- ・鹿児島大学放送研究会との連携がさらに強化されている。
- ・FMぎんがのイベントを計画している。

吉見委員 県の共生協働推進課や市の消費生活センターの案件がありますが、県や市の広報の一端を担う以上、自治体の広報番組を持てるように企画を考えてほしい。市報なども充実した紙面が出来上がってはいるものの、高齢者は文字媒体の市報

は読まないという現実がある。

共生・協働は現在の自治体には必須事項なので、この点のアプローチを引続き継続して行くべき。出来れば自治体からの広報案件は、直接受注の話が来るように動きたいところである。

井手委員長 ラジオ放送局なのでラジオ放送にまず力を注ぐことが本分であるが、ラジオ放送も醸成しつつ、インターネット動画配信も醸成してインターネットのほうでも広告を取れるように出来るのではないか？

中崎社長 CMを流す事は有償で出来るということは、調査済である。ただ、費用的な問題が出てくるので、それがペイできるのであれば考えたい部分である。
また、サイマル放送の選択肢もある。U S Tに偏ってしまうと、映像が無いメディアのラジオをおろそかにする可能性もある。

堀委員 CMの事もありますが、現在のところFMぎんがの放送は、鹿児島市の全域をカバーしているわけではないので、電波が届かないところへのケアとして、またFMぎんがの存在を広く知らせる手段としてのインターネット配信を活用していくという方向性は見据えていった方がいいのでは？

井手委員長 パーソナリティが独自で facebook などの SNS を利用して事前に番組告知をしている例もあるが、そういう取り組みも集客効果があると評価している。

サイマル放送の話も出たが、私自身サイマル放送のサービスを通じてラジオ放送の受信をしている。今後スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で受信するケースも増えていくであろうことを考慮すると、将来的にはサイマル放送を活用する事も考えたほうがよいのでは？

吉見委員 Museca ♪Style 金曜日に新しくパーソナリティが付いたとのことだが、この番組中で朝読み夕読みを実現できないか？

濱田英作 現在のところ想定はしておらず、担当パーソナリティが地域の自治会や学校、幼稚園などとの連携がどの程度可能かを検証してみる必要があるが、要請してみる価値はあろうかと思う。

井手委員長 同番組について、資料中にはターゲットが 20 代～30 代となっているが、金曜日限定のターゲットなのか、あるいは Museca ♪Style 全体がそうなのか？

中崎局長 この金曜日限定のターゲットである。

吉見委員 ターゲットが20代～30代となっているが、番組売り込みの戦略作りはマーケティング手法の市場細分化の考え方を当てはめ、それぞれの属性の方々にそれぞれの方法で訴えかけていくのがよい。例えば60代の一人暮らし、20代独身女性など。

井手委員長 ボランティアで記者のような立場の人を集める必要があるのではないかと考える。
Museca♪Style 金曜日担当のような地域在住のパーソナリティに、そういった地域記者のような動きで協力してくれる方を見つけてもらうのもひとつの手であろうと考える。

井手委員長 谷山送信所の進捗はどのようになっているか？

中崎社長 現在谷山実験局より無変調電波を出して従来のキャリアとの競合を検証しているところである。その中で送信電波の同期を取らないとノイズがでるということが確認されたが、この件は、関係メーカーに相談したところ同期を取る方法はあるという旨の返事を頂いている。

井手委員長 従来第1スタジオを置いていた、社屋一階の再開状況はどのようになっているのか？

中崎局長 大まかにな考えとしては、地域住民やその他近隣に訪れた方々が、憩える場として開放しつつオープンスタジオとして、ラジオ放送の観覧が出来るつくりとし、ラジオ放送を身近に感じてもらう場にもしていくつもりである。具体的な案は現在考えているところである。

また、ひとつの希望の声として、各種講座やワークショップなどが開催できるスペースにして欲しいというものがあるので、そういった部分も視野に入れたい。

中崎社長 地域の情報を告知、広告するための設備の投入も検討している。

中崎社長 3月20日に、FMぎんがで何かイベントをしようという事を考えていたが、水曜午後4時から放送している番組『歌の花道』の番組を軸として、公開放送という形の歌謡ショーにしようと思う。当番組審議委員の堀委員にもこの件に入っただき現在調整をしているところである。

堀委員 概要としては、番組『歌の花道』に出演し、鹿児島で活動している歌手さんを中心に、歌謡ショーを開催するという内容で調整している。

吉見委員 そのイベントの目的はこれまでに出演した歌手の歌を聴くことか？

堀委員 一番の目的は、FMぎんがの知名度向上と考えている。

吉見委員 堀委員としてはイベントとしての運営はどのようにお考えか？

堀委員 基本的には必要経費などを差し引いて、収支0となる事をを想定している。FMぎんがの知名度向上が優先度が高いと認識しているので、このような形でもよいのではないか？

井手委員長 ラジオ放送も絡めるのか？

中崎局長 そのように動いている。現在機材や中継方法の選定、実用に向けた検証などを行っているところである。

7. その他連絡事項

最後に、次回番組審議会を平成25年3月20日 18:00より山形屋ファミリーホールにて開催する事を確認し、今回の番組審議会を閉会した。

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

- ① 自社放送：平成25年4月8日午前9時からの音楽番組の前半に特番で放送
- ② 書面の備置き：平成25年4月8日から、当該事項を記載した書面(議事録) を事務所へ備置き
- ③ インターネット：平成25年4月8日より当社インターネットのホームページに転載

以上

議事録作成 濱田英作